

OB 紹介



外資系 IT 企業

佐々木 拓紀 さん

(平成 17 年度入学)

○仕事内容

職種でいうと、システムエンジニアというものになります。システムエンジニアと聞くと、皆さんは夜遅くまでパソコンに向かって仕事をしているというイメージをお持ちだと思います。実際、それも仕事の一つです。しかし、この仕事の一番大きな目的は、お客さんが何か困ったことがあるときに、IT を使ってそれを解決することです。今私は広島の大手自動車メーカーの原価計算部門をユーザーとして、車一台をいくらずで生産できるかといったことを計算するシステムを作っています。車一台生産するといっても、使用する部品が何万とあります

し、同じところに使用する部品であっても違うメーカーから買ったりしているので、単純に生産費用を計算することはできません。そこで、車一台をいくらずで生産できるか、そして、実際にいくらずで生産したのかという、予定と実績を計算するシステムが必要になるわけです。

システムエンジニアは、パソコンがないと仕事にならないのは確かですが、実際一日の半分はユーザーさんやプロジェクトメンバーと話をし、こうしようとか、何に困っているのかとか、本当に IT を使う必要があるのかといったことをミーティングで話し合ったりしています。ですから、パソコンだけあればいいというわけではありませんね。パソコンに向かってカタカタするだけではなく、設計や営業など、一連の流れを全部やらせていただいています。

○その仕事を選んだ理由や経緯、及び専門知識について

私はもともと情報系を専門にしていたわけではありませんが、就職活動をしていく中で、論理的な考えを生かせる仕事に就きたいと思い、いろいろな業種に関するいろいろな話を聞

くうちに、IT 企業に惹かれていきました。

同期入社の中には、情報系出身で、ある程度知識を持っていた人もいますが、私は数学しかやっていなかったもので、入社後の新入社員研修の中で習得していきました。どの業種でも大学のうちに身につけた専門知識が役立つのは間違いないですが、弊社の場合は、四月から十二月までの八か月間はずっと幕張で他のグループ会社の人と合同で新入社員研修をやっていました。その期間で経験者との差を十分埋められるくらい、内容の濃い研修でした。そのように、研修が充実しているということも、この会社を決めた理由の一つです。

○仕事のやりがいや魅力

一つの画面が完成して、それをユーザーさんに見ていただいて、「佐々木君助かったよ」「ありがとう」と言われた時が一番嬉しいですね。例えば、今までずっと三千枚くらいの紙を見ながら電卓で計算していたものを、私たちのチームで WEB の画面を作り、自動で計算できるようにしたのを見ていただいたとき、「これで計算が楽になった、間違いも無くなるし助かった」といわれたときは、ああ嬉しいなと思いました。

○広大総科への進学理由

もともと私は環境問題に興味があつて、工学部の環境系に行こうかなと思つていましたが、それもなんとなく環境系がいいかなと思つていたくらいで、具体的にこれがやりたいという目標は決まつていませんでした。受験の時に先生に相談したら、先生は大学に入ってから文系でも理系でも、いろいろなコースに進める総合科学部というものがあると教えてくださいました。そのことがきっかけで、総合科学部にしようと思つて入學してから、もちろん環境系には興味がありましたが、一年生の時に授業を受けていく中で、物理や数学に興味に移つていって、数理情報プログラムに進みました。

○総科を選んで良かったこと

総科には文系の人も理系の人もいて、医学部や歯学部などは別として、総科だけで一つの大学みたいところがあるじゃないですか。教員免許を取って教師になつた同級生もいますし、マスコミに就職した友達もいます。もし工学部の環境系に進んでいたら、皆そういう人が就職するようなところに就職し、同じような業種の人ばかりになつていたと思いますが、総科の場

合はいろいろな業種の友達がいるので、卒業してから新鮮でいいなと思います。

○大学で学んだことや培つた能力が社会でどう生かされるか

総合科学部には、一つのテーマを決めて自分で行ういろいろな角度から研究していく機会が、卒論以外にも展開研究等ありますよね。私の場合は、数理情報科学プログラムだったので、三年次にもミニ卒論のようなものがありませんでした。そして、そういったことが三回出来たのは非常に大きな経験になりました。特に数理情報科学プログラムで三年次に行った研究が大きかったですね。私はだまし絵というテーマを設定して、『不可能物体の実現可能性に関する射影幾何学的考察』というタイトルで研究を行いました。まず、総合科学部らしく、認知心理学的に物の見え方という観点から、なぜ人はあれで騙されるのかという研究。そして、本業である数理的観点から、これは数学的に本当に不可能な図形なのかどうかという二つのアプローチを行いました。そういったものが、いろいろな角度から物事を見るという経験になつて、今でも何かしら困ったときに、少し角度を変えてみるという

ところで役に立っていますね。

○大学時代の専攻や研究内容等

卒論は数学の中でも応用数学という立場で、いわゆる方程式をガンガンに解くタイプではなく、少し近代的な数学で、数値解析やコンピュータシミュレーションをやっていました。指導教官は中木達幸先生という方で、卒論から修論まで三年ちよつとお世話になりました。しかし、その先生は私が卒業してすぐに病気で亡くなられたので非常に残念でした。飛翔で言うのもなんですけど、本当にお世話になりました、もう一度きちんとお礼を言いたいなと思います。急に他界されて本当に驚いたんですけれど、ものの取り組み方や論理的な考え方を叩き込んでくれた恩師です。

○大学時代の部活やサークル等

私たちが大学一年の時に作つた総科軟式です。ね。たまたま同学年に野球経験者が十数人いて、みんながサークルに入ろうか迷つていた時に、サークルを自分たち総科だけで作ることにしました。そこからは、もちろんサークル活動したり、ユニフォームを作ったり、ホームページを作ったり、学内のサークルを集めて学内

リーグを主催したり、本当に内容の濃いサークル活動でした。今でも続いているようで、本当にうれしい限りです。

また、私は高校までずっと野球一筋だったのですが、百八十度変えてみようと思い、裏千家茶道部にも入っていました。そこは、野球の世界と全く違い、正座して静かにといった感じでした。しかし、それはそれでいい経験で、礼儀や挨拶の仕方、箸の持ち方など、日常の所作に気を使うところでは非常に役に立っています。

○大学時代の思い出

一言で言うともとても楽しかったですね。友達と4人で車に乗って、一晩で千葉まで行って野球場巡りをするんですよ。昼は千葉のマリンスタジアム、夜は東京ドーム、次の日は埼玉スタジアムといったように。

また、一番思い出深いのが、私はいわゆるオリップルで、二年生の時に一つ下の人と付き合いはじめて、今六年半になるんですけど、今年の十一月に結婚することになりました。総科に入っていないかったら、この結婚も絶対なかったもので、本当に総科でよかったと思います。だから、オリップルで付き合っている人は結婚目指して頑張ってください(笑)。

○将来の目標

社会人としては、早く一人前になって、ユーザーさんに信頼してもらえようというシステムエンジニアになるということですかね。プライベートでは総科軟式の同窓会がしたいですね。各年代の人たちを集めてOB会を開催したいです。私たちの代から始まって今年で十年目くらいになると思うので、その人たちが集まって一年に一回OB会できるような機会があればいいなと思います。せっかく私が広島にいるので、そういう人の輪を大切にしていきたいなと思います。

○人生に影響を与えた人や言葉

一番印象的なのは、高校の野球部の監督です。私が高校に入ってすぐのところに試合で失敗やエラーをして怒られた後に、『へたくそは練習するしかない』と言われたんですよ。それはそのまんまなんですけど、自分の力が無いなら諦めるのではなくて、出来るように努力するしかないんだなど。本当になんてことない言葉なんですけど、自分の中でとても胸に響いて今でも印象に残っています。今でも仕事で出来ないことがあった時に、いろいろ悩んだり先輩に聞い

たりするんですけど、頑張るしかないなと思ってとても励みになっています。

○総科生へ一言

偉そうに言える立場ではないけど、総科って楽しいですよ。いろいろな人がいて、良い意味でも悪い意味でも自由な学部だと思うんですよ。必修が少ないというのもあって、楽をしようと思えば、その時点ではいくらでもできてしまう。しかし、自分で工夫すればどんな才能をのばしたり資格を取ったりできる学部です。だから、今を楽しみつつも将来の事も少しだけ考えてみてください。良い人生設計をしていけば、これほど良い学部は無いと思うので、総科の強みを先輩に聞いて、思い切り楽しんでもらいたいのと思います。また、最近は就職難ですけど、総科の先輩はみんな優しいので、総科の窓口に行って先輩を紹介してもらいうのもいいと思います。

皆さんの「せかいにひとつ」な総科ライフが充実した四年間になることを祈っています。

【担当】

24 生	上野	裕介
24 生	岡添	りえ
24 生	原田	みずほ

OG 紹介



広島大学財務・総務室契約グループ

桑原 晶子 さん

(平成20年度入学)

○仕事内容

私は広島大学の財務・総務室契約グループという部署で、主に物品を発注する契約の仕事をしています。具体的には、先生方や学生さんが使うパソコンや消耗品といった少額のものから、実験で使う大きな機械といった高額なものまで、様々なものを扱っています。先生や職員の方々から依頼をいただくので、学生と直接関わる機会は少ないですが、納品された物品が学生の研究に関わっていると思うと、学生にもつながっているのかなと考えながら仕事をしています。

○その仕事を選んだ理由や経緯

大学職員を希望したのは、人材育成に興味があったというのが一番大きな理由です。私は総合科学部で教育を専攻していたわけではありませんが、教育の役割や課題について考える機会がありました。例えば、学生時代海外に行った際に、学校に行く・教育を受けるということが、国づくりに直結していたり、自己実現のためであったりと、教育の目的が人材育成であるということを感じました。カンボジアやケニアを訪問した時には、現地の大学生の意識の高さに驚きました。彼らの多くが大学に行くということに対して「自分たちが国をよくしていこう」という強い責任感を抱いていました。その一方で、教育によって生じる格差などの問題を知り、教育や学校について考えさせられました。歴史や環境は違いますが、人材育成はもちろん日本でも当てはまることで、地域貢献や国際交流、研究を通じて人材育成というのに興味を持って大学の事務を受けました。また、人と接したり話したりすることが好きだったので、人とかかわる仕事でしたかったというのも大きかったですね。

○仕事のやりがいや魅力

日々新しいことが多く、毎日が忙しいと言いますか、まだ余裕がないのが現状ですね。今は、目の前にある与えられたものをミスなくこなすということを意識しています。先生から依頼が来て、業者の方と契約手続きをしたりして、研究室や教室にもが届き、実際にそれを使っている先生や学生がいると思うと、仕事のやりがいを感じます。やはり、一つの契約、一つの流れが終わるとそれが基本となって大学の運営や研究に繋がっているのだと実感します。財務の仕事のほとんどが、今まで経験したことのない分野なので、毎日が勉強です。

○広大総科への進学理由

面白そうだなというのが一番ですね。パンフレットを貰って、総合科学部には、文化人類学、言語学、心理学、自然環境など、自分の知らない分野やフィールドで活躍される先生が多く在籍されていることに興味を持ちました。私は、貧困問題や環境問題を勉強したいと思っていたのですが、多角的な視点で勉強したいなという思いがあったので、総合科学部がぴったりだと思いました。また、文系理系を問わず多くの

学生がいる総科で、同級生からも多くの刺激を受けることができたので、総科を選んで良かったと思います。

○大学時代の専攻や研究内容等

私は地域文化プログラムに所属していて、ラテンアメリカ・メキシコ史研究をしていらつしやる青木先生に卒業論文を指導していただきました。内容は、発展途上国における住民組織と彼らの運動を事例に挙げて、困難な状況から問題を解決していく住民の運動を取り上げました。在学中に訪問した国々で、貧困問題解決を目指すNGOや先住民族といった人々の草の根の運動を知ることができたのがきっかけでした。

○大学時代の部活やサークル等

一年生の頃から、えこ・ページという環境サークルに所属していました。活動としては、大学祭でごみステーションを設置し啓発活動をしたり、環境に関するイベントや勉強会を開催したりしました。楽しいことが好きなメンバーが多かったのもあって、グリーンツーリズムを企画したり、草木染めをしたり、旬な野菜を使

った料理会をしたりもしました。また、NPO団体や他大学の学生、自治体の方々と一緒に活動することも多かったです。

在学中からは、じゃけん！農 (know) という農業サークルを立ち上げました。このサークルは、地域の方々が、地域の農業の問題を学生と一緒に解決したいということで、大学からお話をいただきました。特に当初は一から始めることの大変さを実感し、悩むことが多かったですが、自分たちの農業体験を通じて、農業の問題や楽しさを他の学生にも伝えていこうと農業体験会の開催を企画するようになりました。農作物がどこでどのようにして作られるのか、農作業体験を通じて日々の消費行動を考えていけたらという思いがありました。

サークル活動では、多くのことを学べ、充実した時間を過ごすことができました。

○大学で印象に残っている事

海外に行けたことがすごく大きいですね。長い留学は行ったことがないのですが、研修やスタディツアーなどの一〜二週間のプログラムで、アジアやアフリカの国々に行きましたが、とても刺激的な時間を過ごすことが出来ました。

○大学で学んだことや培った能力が社会でどう生かされるか

学生だけではなく先生や地域の方、留学生など、多くの人々と接する機会に恵まれていたので、人見知りもせずコミュニケーションをとれるようになったかなと思います。やはり大学に入ると、中学・高校よりいろいろな人と出会う機会があって、自分も動ける範囲がきつと広がると思います。そういったところで勉強でもサークルでも、ボランティアでも旅行や趣味でも、なんでもいいので、世界を広げると得られるものがあると思います。

○将来の目標

今は仕事の面だとやはり、仕事をミスなくこなすというところです。様々な契約案件を経験し、先生や学生の教育研究活動がスムーズに行われるように、手続きをすすめていきたいです。もうすぐ一年経ちますが、これからは周りをつかり見て、与えられたものだけでなく、自分でしっかりと状況を把握して率先してできるように、成長していきたいです。財務の仕事の流れや役割をしっかりと理解し、二年

目に向けて頑張っていきたいです。

また、学生の頃からなんですが、自分の中で現場を知っていることを考えていました。自分の言葉で表現し、伝えることができるので、やはり自分が実際に見たり体験したりすることが大切だなと思うからです。そのためにも、自分の仕事に関わるシンポジウムや研修に参加したり、地域に出て活動することを持続していきたいなと思います。広島大学が何をやっているのか、学生がどんな活躍をしているのかということに、常にアンテナを張っていきたいと思っています。

○人生に影響を与えた人や言葉

在学中、先生や家族、友人など多くの方々から言われた言葉で、「批判的に物事を見る」というものがあります。これは今でも私にとつての課題なんですが、卒業論文の執筆やサークルなどの活動で、この課題の克服の重要性を感じました。私は物事をありのまま捉えて、それを自分のものさしで測ってしまう傾向があります。けれど、それでは物事の裏で起こっていることが見え、大事な本質のようなものを見過ぎてしまうことになります。様々な角度から今ある状況を考えることで、問題意識を持って、

行動に移していけたらと思います。これはなかなか簡単なことではないと思いますが、例えば、本からの知識や、実体験、人々との交流などによつて培われるのではないかと思うので、これからいろいろな経験を積んでいきたいと思っています。

また、影響を与えられたという訳ではないですが、家族であったり友人であったり先生であったり、周りの人たちにとても恵まれています。だから、誰かがという訳じゃないですが、応援してくれている方がいることに大変感謝しています。

○総科生へ一言

社会人になって一年も経っていないくて、社会人と学生の違いがはっきり分かったわけではないですけど、一番違うなと思うのは時間があることです。好きなことややりたいことを見つけて思いっきりやって欲しいです。また総科の先生はとてもフレンドリーで、今でもプログラムや研究室の食事会や飲み会に誘ってくださるのですが、世代を超えた交流を通じて、いろいろな話を聞いて下さい。もちろん友達からいろいろな話を聞いて下さい。総合大学であらゆる分野の学部の人がいるから、総科にとどまらず、たくさんの

ことを吸収して活躍してほしいなと思います。

【担当】

24生 上野 裕介
24生 岡添 りえ
24生 江 永如